

## 編集後記

過去最強クラスの台風14号（ナンマドル）が、鹿児島市付近に上陸し九州・中国地方を中心に、浸水被害や掛け崩れなどの甚大な被害をもたらしました。その後に発生した台風15号（タラス）の影響で線状降水帯が発生し、東海・関東地方を中心に河川の氾濫などの被害がでています。被害に遭われた方々には、1日でも早い復興を心から祈っております。

今月の「誌上ギャラリー」は永田政幸先生から、穂高野の山々が朝日をうけて赤く染まる数分間しかあじわえない神々しい、「モルゲンロート（Morgenrot）」の写真が送られてきました。ありがとうございました。

「論説と話題」では、「第66回九州ブロック学校保健・学校医大会 令和4年度九州学校検診協議会(年次大会)」について9人の先生からのご報告です。学校検診に対する皆様へのご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

「医療トピックス」は、「帯状疱疹予防ワクチンについて」解説いただきました。小児水痘ワクチンが定期接種化されて以降、水痘の流行が激減し高齢者のブースター効果を得る機会が減少したため、帯状疱疹患者がさらに増加することが予想され、ワクチンを選択肢に入れた予防が重要になるとのことでした。

「学術」は今村総合病院の北國陽先生より「精神疾患を有する全身麻醉白内障手術」とのご寄稿で、精神疾患を有する白内障患者でも、適切な管理のもと手術を行えば良好な術後転機が得られるとのことでした。また、にいむら病院の黒木嘉典先生から「MRI/TRUS融合前立腺生検（UroNav）の有用性について」ご投稿いただき、これまでの系統的生検と比較して生検前MRI診断で不要な生検を回避し、臨床的有意癌を高い確率で検出できる事が明らかになったとのことで、今後は生検前MRI診断が標準になるかと思われます。

貴重なご報告ありがとうございました。

「医師会病院だより」では山崎英樹先生から、婦人科は全国有数の婦人科内視鏡手

術ハイボリュームセンターで、昨年度より初診、県外紹介患者が増加しているとのことです。これからも、紹介のほどよろしくお願ひいたします。

「隨筆・その他」の切手が語る医学のコーナーでは古庄弘典先生より「赤十字切手」切手が紹介されています。いつも貴重な切手ありがとうございます。また隨筆のコーナーでは、小田原良治先生からは「医事法判例百選」で考える異状死体の届出義務(1)」が、栗博志先生から読み応えのある大作「フランツ・リストと聖エリザベト - 第1部、フランツ・リスト、その10 - 」が届いてあります。どうぞご一読ください。またリレー隨筆では堀部碧先生より「制度と社会を生きる一研修医の経験を通して思うこと」と題してご寄稿いただき、コロナ禍で不安な学生時代を過ごされ、研修医になられてから自分の勉強は患者さんのためにあるという言葉に、感銘を受けました。今後のご活躍を陰ながら応援しております。

「各種報告」では理事会の概要、委員会報告が報告されています。ご参照ください。

「附属施設だより」では、医師会病院収支・診療実績(7月)、検査センター検査実績(7月)・収支実績(6月)が報告されております。ご参照ください。

「鹿市医郷壇」では兼題が唐芋（からいも/かいも）ですが、かなりの力作が掲載されておりますので是非ご覧ください。

いよいよプロ野球も佳境を迎えクライマックスシリーズ、日本シリーズへと突入していきます。セ・リーグでは断トツでリーグ優勝を飾った、昨年日本一のヤクルトスワローズが連覇目指して一直線ですが。一方混戦バ・リーグはオリックスブルーウェーブのミラクル優勝となりました。しかしながらクライマックスシリーズでは、まだまだ一波乱二波乱ありそうです。来年は、WBCも開催予定で大谷選手をはじめとするメジャーリーガーの参加も期待され、野球界も盛り上がって欲しいものです。

（編集委員 角 純啓）